

●住まいづくりを「まちづくり」につなげる

- ・ 住居づくりを、釜ヶ崎のまちづくりにつなぐ

福祉に資する住宅づくり

多様な人々をまちに呼び込む住宅づくり

新しい商売の展開

釜ヶ崎地域の社会運動の拠点づくり

●釜ヶ崎の社会運動を土台に、「つながり」をつくる

- ・釜ヶ崎におけるNPOや市民活動を土台にした、地域のつながりづくり、入居者のつながりづくり
- ・地域とつながりながら暮らせるしかけづくり「PTA」方式
 - ①入居者は地域の社会福祉法人やNPOからの誘導を中心に。
 - ②紹介者と居住者、管理者が参加するアソシエーションを組織

密集市街地における「まちづくりエンアパートメント」

名称：アイビスコート



所在地

大阪市西成区南開1-6-10

敷地面積

563.14 m²

建築面積

312.57 m² (建蔽率： 55.50 %)

専用床面積

1811.47 m² (容積率： 291.25 m²)

構造・階数

鉄筋コンクリート造、地上8階建て

戸数

28戸

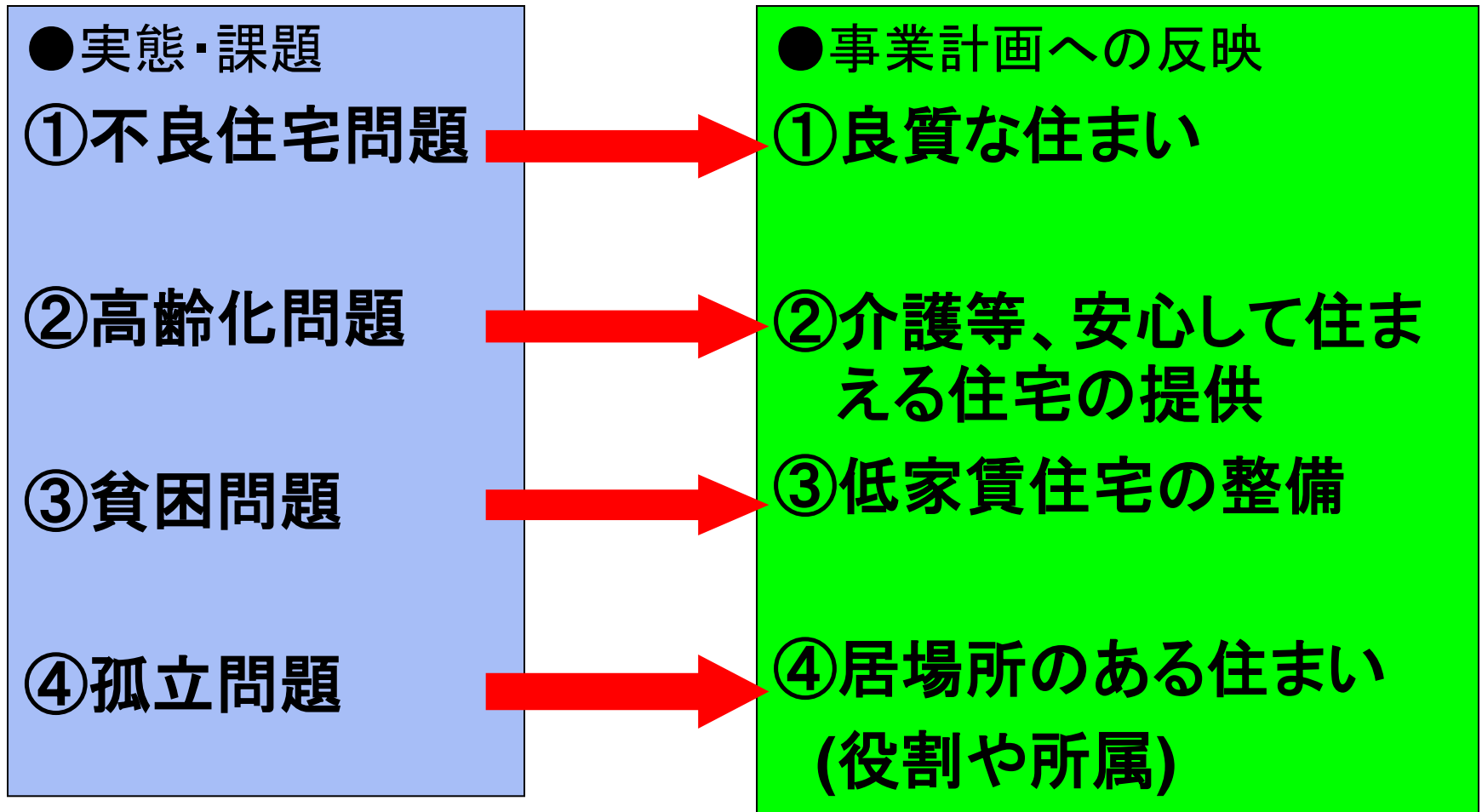
駐車台数

1台

駐輪台数

25台

地域の課題から見た事業コンセプト



■基本理念

①住まいは福祉の基本

ホームレス問題と近接してきた私たちが実感する「住まいは福祉の基本」という視点を再確認し、民間でもない公営でもない、新たな「地域共益住宅」を構想し、人々がエンパワーメントされる住まいづくりをめざします。

②安心住宅はユニバーサルデザイン

これまでの高齢者住宅は特別な存在であったが、これからの超高齢化社会のなかでは、福祉的配慮が備わった住まいはあたり前として捉え、社会基盤（インフラ）として考えます。

③つながりが持てる住まいづくり

人は一人では生きていけません。単身者の多住する西成で、都市が喪失しかけている豊かなつながりとコミュニティの復権と再生へ向け、助け合える、支え合える、高め合える住まいづくりをめざします。

④居場所や役割のある暮らし

住まいは、くつろぎ、癒しなど大切な生活空間ですが、それらに加え高齢化や単身化により喪失しがちな居場所や役割が実感できる場が求められています。それが「しごと」と「あそび」の提案につながりました。

⑤安心の生活サポートがある住まい

高齢化によって健康・介護・生活などさまざまな不安が増えていきます。また、単身になりいざと言う時の安全確保には相應の準備が必要です。生活の基本のところでは不安を感じない、そんなセーフティネットを張りめぐらせます。

